

※計画書「2自治体SDGsモデル事業(3)三側面をつなぐ統合的取組みの概要」関係

「しもかわSDGsインディケーター」と「しもかわデータベース」の開発

SDGsでは、目標達成に向けた進捗状況を測るための約230の指標が提案されており、あらゆるステークホルダーのSDGsの推進の際には、指標を用いて2030年に向けたSDGsの取組・達成状況の進捗管理をすることが求められている。

しかしながら、この約230の指標はグローバルな視点から提案されたもので、日本の自治体レベルで使用するには実用性に乏しい。

こうしたことから、この指標の読み替えや独自に指標を整備する必要があり、「ありたい姿」の取組みを的確に測定可能なローカル指標「しもかわインディケーター」を設定する。

構成は、進捗を測定する尺度として17ゴールごとに指標を設定、その中から重要なものについて目標値を設定する。また、定期的に「インディケーター」を捕捉・活用していくためのデータ収集測定の仕組み「しもかわデータベース」を構築する。

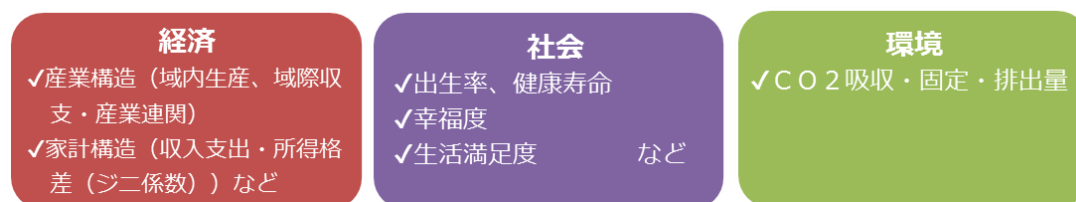
[しもかわデータベース(案)※2018年度に開発]

■経済、社会、環境ごとの領域で指標データを整理する。

- ①「経済領域」は、主に「産業経済」と「家計経済」で構成されるが、「産業経済」は、域内生産額、域際収支、産業連関、業種ごとの生産額等を統計データとともに産業連関表を独自に作成する等して測定をする。「家計経済」は、給与収入、世帯分類ごとの家計構造、購買構造(域際収支)、所得格差(ジニ係数等)等を家計調査(小規模自治体のため国の調査は行われない)や所得税情報等のマクロ分析を独自に実施して測定をする。
- ②「社会領域」は、出生率や健康寿命等統計データに加え、統計データでは測定することができない幸福度や生活満足度等は町民アンケート調査等を独自に実施して測定をする。
- ③「環境領域」は、既に構築している「炭素会計制度」における測定プロセスを活用し、CO<sub>2</sub>の吸収・固定・排出量を独自に実施して測定をする。

■上記測定について、統計調査は基準年で随時整理、産業連関調査、町民アンケート調査等は主に計画改訂時(4年~5年間隔)で実施し経年変化分析が可能な仕組みとする。

しもかわデータベースの構築



[しもかわSDGsインディケーター(案) ※2018 年度に開発]

- インディケーターは、達成度を測定するための地域ステークホルダー共通のモノサシ(尺度)とするとともに、他自治体と比較可能な「共通指標」とローカルアイデンティティを表す「独自指標」から構成する。
- SDGsゴールごとに設定し「ありたい姿」と関連付ける。両側面から達成状況を測定することで、SDGsゴールから検証した場合が見落としている課題が明確になり、「ありたい姿」から検証した場合は、SDGsへのインパクトを測定することが可能となる。
- また、重要な指標は「コア指標」、補完する指標は「サブ指標」として整理をする。

しもかわSDGsインディケーター

I 共通指標 (他自治体との比較可能数値)

- 国が行う統計調査 など
- CASBEE都市

II 独自指標 (自治体が独自に収集している数値)

- 産業連関表、税情報マクロ活用、幸福度、住民満足度調査
- 各分野が行う独自調査、各年実績 など

～以下、コア指標例 (指標代表例) ※2018 年度に開発～



貧困 →「ありたい姿」(4) みんなで思いやれる家族のようなまち

- 1-2 生活や余暇を楽しむお金があると感じている人の割合 ※住調 46.4%
- 1-3 母子家庭世帯で貧困ラインを下回っている割合 ※税調 調査中



飢餓 →「ありたい姿」(3) 人も資源もお金も循環・持続するまち

- 2-4 農業生産額 26.3 億円、農業域際収支 17.9 億円 ※町調、産連表
- 2-7 実質食料自給率 ※家計調査 10.1%



健康 →「ありたい姿」(2) 誰ひとり取り残されないまち

- 3-1 自分や家族が健康であると感じている人の割合 ※住調 69.6%
- 3-2 健診(国保・ハピネス)結果で”異常無し”の人の割合 ※町調 6.4%



教育 →「ありたい姿」(2) 誰ひとり取り残されないまち、(5) 子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち

- 4-1 全国に占める小学 6 年生の学力 ※全国学力・学習状況調査 平均 1.028>1
- 4-2 全国に占める中学 3 年生の学力 ※全国学力・学習状況調査 平均 0.852<1

## 【参考資料】 下川町

4-8 自主活動や生涯各期における生涯学習に参加できる機会がある ※住調 **30.2%**



### ジェンダー→「ありたい姿」(2)誰ひとり取り残されないまち

5-2 女性で家庭と仕事が無理なく両立できていると感じている人の割合(18～49歳) **51.0%**

5-3 女性で働きながら子育てがしやすいと感じている人の割合(18～49歳) **42.3%**



### 水・衛生→「ありたい姿」(3)人も資源もお金も循環・持続するまち

6-1 住民1人当たりの給水量 ※町調 **108.4 m<sup>3</sup>**



### エネルギー→「ありたい姿」(3)人も資源もお金も循環・持続するまち

7-1 熱エネルギー自給率 ※町調 **49%**

7-2 電力エネルギー自給率 ※町調 **4%**



### 経済成長と雇用→「ありたい姿」(2)誰ひとり取り残されないまち、(3)人も資源もお金も循環・持続するまち

8-1 完全失業率(完全失業者数 39人/労働力人口 1788人) ※国調 **2.2%**

8-3 域内生産額 ※産連表 **215 億円**、8-4 域際収支 ※産連表 **△52 億円**

8-2 仕事にやりがいがあると感じている人の割合 ※住調 **49.5%**



### インフラ、産業化、イノベーション→「ありたい姿」(3)人も資源もお金も循環・持続するまち

9-1 労働者数 ※国調 **1,788 人**

9-2 付加価値率(農林商工業等)※産連表 **54.4%**(付加価値額 117 億円/215 億円)



### 不平等→「ありたい姿」(2)誰ひとり取り残されないまち

10-1 外国人数 ※国調 **32 人**

10-2 所得格差(ジニ係数) ※税情 **0.64>0**



### 持続可能な都市→「ありたい姿」(4)みんなで思いやれる家族のようなまち

11-1 現在の下川町は住み良いところ(住み良い層) ※住調 **73.9%**

11-2 これからも下川町に住み続けたい(住み続けたい層) ※住調 **73.1%**



### 持続可能な生産と消費→「ありたい姿」(3)人も資源もお金も循環・持続するまち、(7)引き継がれた文化や資源を尊重し、新たな価値を生み出す「温故起新」のまち

## 【参考資料】 下川町

12-2 リサイクル率 ※一般廃棄物処理事業実態調査 **47.5%**

12-3 一人当たりごみの年間排出量 ※町調 **1,077t**



### 気候変動→「ありたい姿」(1) 世界から目標とされるまち

13-1 CO2 排出量 ※町調 **2.90 万 t-CO2**、13-2 CO2 固定量 ※町調 **112.0 万 t-CO2**

13-3 CO2 吸収量 ※町調 **73.1 万 t-CO2**



### 海洋資源→「ありたい姿」(3) 人も資源もお金も循環・持続するまち

14-1 生物化学的酸素要求量(BOD) ※町調 **0.5mg/l 以下(基準値 2mg/l 以下)**



### 陸上資源→「ありたい姿」(3) 人も資源もお金も循環・持続するまち

15-1 適正な森林管理面積(FSC 森林認証面積) ※町調 **町有林 100% 私有林 70.7%**

15-5 木材利用率(伐採量/成長量 $\leq$ 100%) ※町調 **61.9% $\leq$ 100%**



### 平和→「ありたい姿」(4) みんなで思いやれる家族のようなまち

16-1 ゆったり安心して暮らしていけると感じている人の割合 ※住調 **54.2%**

16-2 地域の人との結びつきが強いと感じている人の割合 ※住調 **64.2%**



### 実施手段→「ありたい姿」全ての項目

17-3 まちづくりに対して満足と感じている人の割合 ※住調 **平均 5.88 点/10 点**

17-4 まちづくりに対して関心の高い人の割合 ※住調 **平均 5.94 点/10 点**

※「国調」は国勢調査、「住調」は住民意向調査結果(2017年度に18歳以上の全ての町民対象、回収率約60%)、「産連表」は2008年調査数値で現在更新作業中、「家計調査」は2017～2018年度調査結果、「町調」は町が独自に実施する調査、「税調」は税情報のマクロ分析調査である。

## SDGs、「ありたい姿」、「計画」、「インディケーター」の統合

■SDGs、「ありたい姿」、計画(事業)、「インディケーター」を統合し、適切に進捗管理を実施しながら確実に取組みを進めていくシステムを構築する必要がある。

■こうしたことから、「ありたい姿」の項目毎にこれを測定するインディケーターを設定、この実現のための計画を策定し、事業を位置付け、実行すると同時に、SDGsへのインパクトを関連付ける。